

2017	6	10~11	平な山林で玉切作業をしていて、次の玉切作業に移るため待機中で、地面に付いていたつるに上がっていた。そのつるが、引き寄せする木に絡まって伸びているとは知らなかった。重機オペレーターが次の作業をするために、木を引き寄せ始めたところ、つるが持ち上がり、別の重機のキャタピラの部分に引き寄せられ、つるとキャタピラに挟まれて被災した。	58	30309	7	10 ~ 29
2017	7	15~16	間伐材を伐採した後グラップル付バックホウを使って林道山側の材を林道に引き出す作業中グラップルで材をつかんだまま後向きに引っ張っている時に路肩に寄り過ぎて左キャタピラが脱輪しかかった。その状況を修正しようとしていたが運転席に乗ったまま機械ごと横転し林道から転落した。その時に運転席のキャビンと地面の間に左腕と左足を挟まり負傷した。	63	60201	2	1 ~ 9
2017	9	8~9	トラック（25t）の荷台上の台木（パルプ材用レール）脱着作業中、グラップルにてレールを持ち上げ移動させる際、グラップルとレールが平行でなかったのでレールが右方向にはじかれてその際、そばにいた被災者の右大腿部にあたり負傷した。	45	60201	6	10 ~ 29
2017	9	15~16	山林を切り開く整地工事中、伐採した木材をバックホーで挟み運搬する際に、機械の作業範囲内に作業員が居ない事を目視で確認できないまま作業を続けた、作業員も機械の稼働範囲である事の認識が無かったため退避が間に合わず木材が左足に当たり受傷した。	57	30209	6	1 ~ 9
2017	10	10~11	被災者+C1:C55（作業班長）は、当時、架線系搬出現場にて不要になった向柱の撤去作業を行っていた。向柱上での作業を終え、地面に降りるために、重機（プロセッサ）のヘッド部分に移り、安全帯を移し、重機のオペレーターに地面に降ろすよう合図を行った。合図を受けたオペレーターは、重機の外にいたため、操縦席に乗り込み、エンジン始動と安全レバー操作を行った。その時、オペレーターの上着（ヤッケ）が操作レバーに引っかかり、右旋回の動きになっていた。オペレーターはこの事に気付いておらず、安全レバーを降ろすと同時	30	60201	7	10 ~ 29

			に重機が右旋回をした。その際、ヘッドに搭乗していた被災者の左肘が重機のヘッドと向柱の間に挟まった。				
2017	12	9~10	営業所工場内、308Dハーベスタ油漏れ修理で、メカニックからハーベスタの開閉を頼まれ、車両に乗り込む時、セーフティレバーが解除されていないことに気づかず、右足が作業レバーに当たってしまい、作業機が車両側に動いてしまい、油圧ゲージ確認のためブレード上にいたメカニックの足がブレードとハーベスタの間に挟まれ受傷した。	30	80209	7	1 ~ 9
2017	12	13~14	木材の運搬作業で、トラックの通行の為に管理道路の除雪作業中、下り坂でアイスバーンであったため重機（グラップル）が滑り、路肩から約10m滑落し、横転の状態で斜面に止まった。横転した重機から自力で脱出し管理用道路まで上がってきた。	54	60201	1	10 ~ 29
2017	12	10~11	立木伐採現場で造材をしているとき、プロセッサ（0.45バックホー）を次の場所に移動するときに道路に雪があったが、平らな所だから大丈夫だと思い走行したところ、滑って道路下に落ちた。	41	60201	1	1 ~ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html